

次世代農業へ 新たなる挑戦



33rd International Agricultural Machinery Show in Obihiro

第33回 国際農業機械展 in 帯広

公式記録集

第33回 国際農業機械展 in 帯広

開催委員会



過去最高の出展社数119社、20万人の来場者 十勝が熱く燃えた5日間。

あふれる笑顔と流れる汗。未来の農業を担う次世代へ、確かな手応え。

第33回 国際農業機械展 in 帯広は7月10日(木)、台風8号が接近する小雨まじりのなか、第32回
 の中止を経て8年ぶりに帯広市北愛国交流広場を舞台に開幕しました。期間中の総入場者数は20万人。
 前回31回の24万5千人には及ばなかったものの、出展社は過去最高の119企業・団体を数えました。
 また今回は、会場付近に一般の来場者用駐車場がないことから、札内川河川敷臨時駐車場と帯広駅の
 シャトルバス運行が中心となるなど初の試みの中、2年前から準備を進めてきた実行委員会スタッフ
 の顔にも、来場者の笑顔と反響の高さに安堵を感じました。心配された台風の影響も初日にとどまり、
 残りの4日間は天候にも恵まれ、今後の国際農機展開催と、農業の未来に確かな手応えを感じた5日
 間となりました。

5日間の入場者総数…200,000人







開会式挨拶

第33回 国際農業機械展 in 帯広 開催委員会 会長 有塚 利宣

本日は第33回 国際農業機械展の開催にあたり、道内はもとより全国各地、さらには海外からも多数ご来場いただき、心から歓迎を申し上げるところでございます。

この農業機械展、4年に一度行われることになっていましたが、ちょうど4年前、開催寸前で口蹄疫が発生し中止をさせていただきました。次の年の開催を目指し準備を進めてきましたが、東日本大震災が発生、国をあげての救済復興が最優先と判断し、中止をいたしました。前回の開催から8年、3度目の準備を経て今回開催することが出来ました。あらゆる困難を乗り越え、このように全国から多くの企業が出展することが出来たのも、多くの関係機関のご協力のおかげと、心から感謝申し上げます。

この農業機械展は参加された出展社が、様々な学会または外郭団体を含めた環境へ対するあらゆる提言を凌駕する物作りの技を発表するオリンピックのようなものでもあります。是非皆さん、そういった日本の技術力の高さを存分にご覧いただければと存じます。

今回の農業機械展では、十勝の食糧自給率1100%を誇る様々な味覚を堪能していただける「フードバレーとかち 食彩祭」を併催いたしております。そちらもご堪能いただければ幸いです。

最後になりますが、ご来場いただいたお客様、ご来賓各位、さらに各関係機関・団体の皆様に心から感謝を申し上げ、開会に際しましてのご挨拶とさせていただきます。



歓迎挨拶 帯広市長 米沢 則寿 様

第33回 国際農業機械展 in 帯広の開催に当たりまして、帯広市を代表して歓迎のご挨拶をさせていただきます。

まずは、多くのご来場の皆様をお迎えし、ここ十勝帯広におきまして8年ぶりに開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、このように大規模な展示会の開催にご尽力いただいた、開催委員会の有塚会長をはじめ関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

ここ十勝は大規模農業が営まれ、我が国を代表する食糧供給の拠点として揺るぎない地位を築き上げてきました。その役割を果たすために大規模農業の効率性・安全性は大変重要な要素であります。スマートアグリなど農業を取り巻く技術の進展は目覚ましいものがありますが、十勝農業の発展が日本農業の成長モデルになり得るものと確信しています。こうした中、ここ十勝を舞台に「次世代農業への新たな挑戦」このテーマに国際農業機械展が開催され、先進的な農業機械が国内外から一堂に会することは、十勝の魅力、我々これを「十勝の価値」と呼んでいますが、十勝の価値を発信する上で、素晴らしい機会であると感じています。

会場内では食と観光をテーマとした「フードバレーとかち 食彩祭」も同時開催しています。十勝の農畜産物を活用したご当地グルメや特産品、十勝の食の魅力を心ゆくまでご堪能いただければ幸いです。

本日は、農業・食・観光、十勝の魅力がここ北愛国交流広場に集結しております。来場者の皆様には展示会を通じまして未来の農業について語り合いつつ、フードバレーとかちの美味しいものをぜひ召し上がりいただき、そこで感じた十勝の魅力を多くの方々にお伝えしたいと思います。結びとなりますが、本機械展の盛会、並びにご来場いただいた皆様におきまして今回の滞在が有益なものとなりますようご期待申し上げ、歓迎の挨拶とさせていただきます。





祝辞 農林水産副大臣 古川 貴盛 様

第33回目を迎えました国際農業機械展 in 帯広の開催に際し、農林水産省を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。また、ご関係の方々におかれましては、日頃から農業機械の開発と改良、及び普及を通じまして、我が国の農業の発展に多大なるご貢献をいただいておりますことに、この場を借りてお礼を申し上げます。

「農は国のもと」といわれますように、農業は食料生産のみならず、国土や自然環境の保全、さらには集落の維持といった多面的な機能の発揮を通じ、国民の暮らしにとって重要な役割を担っています。先日改訂されました「農林水産業 地域の活力 創造プラン」におきましては、農村地域の潜在力を生かし、若者たちが希望の持てる、強い農林水産業を創造する政策改革のグランドデザインです。同プランにおいて示された基本方法を踏まえたと、現在、食料・農業・農村基本計画の見直しに向けた議論を進めているところです。

今後は我が国の農業の競争力をさらに強化し、持続可能なものとするためには、担い手への農地集積・集約化など、農業の構造改革を加速化する必要があります。これまで農業の機械化の進展により生産性が飛躍的に向上しましたが、引き続き、担い手が収益性向上や生産コストの削減を図る上で不可欠な要素です。農林水産省としても、生産性の飛躍的な向上、環境に優しい農業の実現、農作業事故の撲滅に貢献する高性能農業機械の開発・普及をさらに推進をしていきたいと思っております。

また農林水産省におきましては、昨年11月から国内大手農業機械メーカーに加えて、先ほどのパレードでも拝見しましたロボット技術や、IT業界からも参画をはじめ、異分野の先端技術を積極的に導入・活用し、これまでになく超省力で高品質な生産をはかる「スマート農業」の実現にさらに検討を進めていく所存です。特に今回の農業機械展に出展されている、自動走行トラクターをはじめとするロボット技術等が、農業界と経済界との連携により速やかに実用化されることにより、農業に大きなイノベーションが起こることと期待しています。

祝辞



北海道知事 高橋はるみ 様



ホクレン代表理事
会長 佐藤 俊彰 様

出展社決意表明 日本ニューホランド 営業副部長 後藤 勝造

本日より5日間開催されます第33回 国際農業機械展 in 帯広はいよいよスタートいたします。

私たち出展社は、それぞれが最新鋭の農業機械を展示し、ご来場の皆様を迎える準備を行い、開催を心待ちにしておりました。開催委員会によりまして来場予定人数は20万人とのことですが、来場者を暖かく迎え入れ、最新鋭の農業機械を知る最良の場となるように対応いたします。また私たちは、この展示会場においてお互いに技術交流、情報交換を行い、技術の研鑽と商品開発に役立つ場といたします。

今回は海外からも多くの方が来場すると伺っております。第33回 国際農業機械展 in 帯広が、我が国最大の食糧供給基地で十勝から世界に向けて新技術を発信する場となり、そして成功裏に終わるよう出展社一同、5日間鋭意努力いたします。

以上出展社の決意表明といたします。ありがとうございました。





開会式

朝から心配された空模様は、早朝の霧雨から小雨へと変わり、つめかけた来場者が持つカラフルな傘が花を添えるなか、開会式は行われました。

パレードは本部前をスタート。とかち青空レディを先頭に、ばんえい十勝の人気者リッキー一号の手綱を引く有塚会長と米沢市長が続き、最新鋭の8台の大型トラクター、最後尾にはGPS制御の無人トラクターが来場者の目を引きつけました。その後特設ステージ上では、各方面から多数の来賓を迎え、有塚会長が高らかに開会を宣言、紅白のテープにはさみを入れた瞬間、花火の合図とともに国際農業機械展がスタートしました。



国際農業機械展 in 帯広

International Agricultural Machinery Show in Obihiro